

同援だより

2022年

●●●●●
秋季号 (193号)

● 主な内容 ●

永年勤続表彰
施設通信
全国救護施設研究協議大会発表



夏祭り！「どれを当てようかなあ」 ゆたか苑



思いやりの心

理事長 飯山 幸雄

自明の理であるが、人は一人では生きられないから集まって社会を作っている。社会には、家庭、学校、会社、自治体、国家など様々な場面があるが、それはそれぞれのルール（ルールには法令や組織の規則など顕現化しているものとメンバー共通認識としての暗黙のものがある。）に基づいてでき上がっている。したがって、人は今自分のいる場面ではそこで通用するルールを守って行動している。しかし、現実には

皆がみなルールを守っているとは言い難い。その顕著な例が交通ルールである。信号が黄色から赤に変わるとき、交差点の手前で止まらず交差点に突っ込んでくる運転者が見られる。事故にならなければいいという安易な気持ちが胸の中にあるからだろうが、その自分勝手な心が重大事故を引き起こしているのは枚挙にいとまがない。このような運転者には、ルールを守る守らない以前の問題として人に対する思いやりが欠けているのである。

少し極端な例を書いたが、人間関係を綻ばせないためにはルールを守ることが必要である。しかし、ルール自体がおかしいということももちろんある。根拠はないと言われていたが、古代ギリシアにおいて当時の法律によって死刑になったソクラテスの残した「悪法もまた法なり」という言葉が今も忘れられていないのは、昔から人が作ったルールにはおかしいものもあるという証左である。変えるべきものは変えなければならない。

ところで、人は自由という権利を持っている。自由は前近代から脱した現代人が獲得した大切な人権であるが、日常生活や仕事において自由とルールは相容れないところがある。

ここで自由ということ。「自分の思うとおりにやりたい」、「他人に左右されず自分の思いを通したい」という感情とその発現形態としての行動と考えてみる。するとある人の自由と別の人の自由とがぶつかりあってしまうことが起きる。その調整はどうすれば良いか。それには思いやりの心を持つことである。人を思いやるということは、単に相手の言うことを何でも聞き入れ、譲ってあげるということではない。その人が何故そういうことを言うのか、何故そういう行動をとるのか、その背景を思い、何を欲しているのか、どのような対応をするのがベストかを考え、優しい言葉（人によっては丁寧な言葉、親しみやすい言葉等々）で接することである。その要諦は、相手の人格をきちんと意識し大切にすることにある。



社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会

令和4年度永年勤続表彰



■ 30年 永年勤続を迎えて

東村山生活実習所
主任生活支援員 藤井 裕子

「先人たちが作り上げてきたものの上にあぐらをかいてはいけない。」常に意識してきた言葉です。現在に至るまでの歴史や築き上げてきたもの、経緯経過を尊重し受け入れていく。

そのうえで時代の流れに沿った根拠のある支援を行っていくことが必要だと考えています。

障がい者を取り巻く環境はそれぞれの立場からくる考えや時代の流れとともに、良くも悪くも変化してきました。しかし、障がいのある利用者に対する愛情や根底にある絆はいつの時代も変わりません。その思いは、私が30年勤続した中で学んだ大切な人間の心情です。

利用者の中には、上手く気持ちを表現できなかったり、立ち回ることが苦手だったりする人が、場合によっては利用されてしまうことがあります。私達は支援者として、そのような人たちの価値・存在を示し、すべての人が生きていること、生き続けることに意味があること、そして人として当たり前公平に接し、その人の立場に立ってものを考え行動すること、そういうことを心に刻み、自分自身が平常心を保ちバランスを維持しながら日々の業務にあた

ることが利用者への支援、また後輩に残していくべきものだと思っています。

平成3年6月1日にさやま園に入職した頃は、利用者の目的や夢の実現に向けて職員も一緒に切磋琢磨する毎日でした。それは支援者のみならず、職種を超えた真剣な意見の交わり合いは、まるで戦いのようで全職員が全力で支援にあたる姿勢そのものでした。人と人が関わり触れ合うことで感情や意思が交差します。その中で先輩たちは、地道な成果や見落としがちな能力をきちんと引き出す力を持っていました。その姿に私の人生観、価値観は育てられ現在に至っています。

これからも人として、支援者として課せられた役割を果たすため、自分自身を律し精進してまいります。



■ 20年 永年勤続を迎えて

同援さくら保育園
管理栄養士 葭田 淳子

管理栄養士として企業で数年働き、転職時に大山保育園を紹介して頂きました。一人職種での栄養士の仕事は保育園が初めてでしたが、学びたいことも多く、子どもも好きだったため、保育園での勤務を決意しました。それから20年経ち、職場の沢山の方々の協力や助けがあり仕事を続けることが出来ました。深く感謝いたします。

働き始めた時は、成長過程の子ども達のために食材を選び、すべてを給食に還元できる事に感動し栄養士としてとても嬉しかった事を覚えています。発注で失敗した時や、料理に悩んだ時は、ベテランの調理師さんに相談すると「こうすれば大丈夫よ」と何度も助けていただきました。先輩の存在がとても大きく、そのことにより、自分自身も相談しやすく、

アドバイスが出来る先輩になりたいと思いながら仕事をするようになりました。

おやつに手の込んだ本格的なアップルパイを作った時に、食べなれず大半が残食になり大きな挫折を味わった事もありました。それでも頑張ろうと思えるのは、「せんせーおいしいよ!」と伝えてくれたり、食事の様子を見に行った時に頑張っている子どもたちの姿です。成長に携わる責任とやりがいを感じながら、これからも頑張りたいと思います。





永年勤続表彰式が令和4年10月6日に執り行われ、30年勤続5名、20年勤続4名、10年勤続24名の方々が表彰されました。今後益々のご活躍をお祈りしております。

■ 10年 永年勤続を迎えて

ひかり苑
介護副主任 矢部 悠太

10年前、新卒で入職した平成24年4月1日、救護施設昭島荘に配属されました。学生時代より障害者支援について興味があった私にとっては願ったり叶ったりという状態でした。精神的なケアが主な業務だと思っていましたが、私が配属されたフロアでは高齢化のため介護が必要な利用者が多く自分の思い描いていたビジョンがあっという間に崩れてしまった事を覚えています。とにかく毎日オムツ交換や入浴介助を行い、技術を身に付けるまで辛い日々でしたが、上司や先輩、同僚に支えられたお陰で退職を考えたことは一度もありませんでした。

経験を積むにつれていつの間にか自分が後輩・部下を支える側となり職員、利用者との出会いと別

れを経験させていただき、多くのことを学びました。

令和2年度より特養ひかり苑に異動となり、それまでとは違う本格的な介護業務に従事する事となりましたが、入職当時を思い出し初心に帰ることで当時の自分の努力は間違っていなかったと実感し、良き仲間にも恵まれたからこそ乗り越えられた10年だと感じました。

今後も20年30年と「同援マン」として感謝の気持ちを沢山の皆様に還元していけるよう精進してまいります。



30年

茂木 貴之 (昭島荘)
藤井 裕子 (東村山生活実習所)
小出 高秀 (昭島病院)
長谷部重行 (昭島病院)
小菅真由美 (昭島病院)

20年

角野 健一 (さやま園)
葭田 淳子 (同援さくら保育園)
石井 裕子 (昭島病院)
多田恵美理 (昭島病院)

10年

渡邊 和志 (フジホーム)
野村 武史 (ニューフジホーム)
小金澤菜由 (原町ホーム)
池田 維孝 (原町ホーム居宅介護支援事業所)
加藤知津子 (ゆたか苑居宅介護支援事業所)
矢部 悠太 (ひかり苑)
加藤田寛道 (ひかり苑)
力石 孝明 (サンホーム)
三井 宏泉 (万世敬老園)
吉田 雅一 (小茂根福祉園)
戸村 敦 (さくらんぼ)
仙波 弘子 (豊島区東部障害支援センター)
勝呂 彩美 (むさしの保育園)
五十嵐まい (むさしの保育園)
片桐 優馬 (むさしの保育園)
吉永 恵理 (昭和郷保育園)
小田部翔太 (昭和郷保育園)
村上 美央 (大山保育園)
小川 リカ (昭和郷第二保育園)
雪 大地 (同援さくら保育園)
萱野 真樹 (同援さくら保育園)
西岡明日香 (同援はいじま保育園)
中里 充志 (昭島病院)
行定 昂洋 (事業局)

表彰者の方々



ニューフジホーム

生活相談員 福島 洋一

『日々の生活に潤いを』

新型コロナウイルスが世界を騒がせてから、3年近くの月日が経とうとしています。当初は、得体のしれないウイルスに、連日加熱する報道で、もの凄い恐怖心を感じていた日々を思い出します。あれから、わたしたちの生活は一変しました。外出時のマスク着用や、密を避けた生活、日々の手指消毒は、今では当たり前のこととして行われるようになりました。ニューフジホームのご利用者の生活も大きく変わり、ご家族の面会制限が行われ、緊急時以外の外出をご遠慮いただくといったことを皆さんにお願いしている状況が続いています。ボランティアさんに来てもらうこともできなくなりました。日々の生活の中で、楽しみにされていた機会を我慢していただく状況が続いていることに、苦しい思いと、いつまでこの状況が続くのか、見当もつかず、先行きの見通しも立たずもはやお手上げのような心境に至ります。

そんな中、少しずつ感染症予防対策をしながら、生活していく上での制限が緩和されていき、

ニューフジホームでは今年の6月から、職員によるフロア毎でのピアノや打楽器を用いた音楽の小規模レクリエーションを再開しました。大きい声を出すことはできませんが、換気をしながら、感染対策に気をつけて行っています。ピアノに合わせて皆さんで鈴を振ったり、太鼓を叩いて、身体を動かして楽しんでいただいています。レクリエーションの時間は皆さんニコニコした表情で参加されていて、こういった刺激が、生活に潤いを持たせてくれることを改めて痛感しました。

皆さんに少しでも楽しんでもらえるように、これからもできることを続けていきます。



つつじが丘保育園

副園長 木下 美佳

『いっぱいいっぱいいたのしいな』

タイトルは、つつじが丘保育園園歌の題名です。121名の子ども達が毎日元気に通い、この題名のように楽しい事を友達や保育士と見つけて遊び、過ごしています。

楽しいことの一つとして、この夏保育園では「縁日ごっこ」を行いました。くじ引きやおもちやすくいの他、年長さんが中心となって制作した神輿も披露しました。今年度のテーマは「海」です。神輿の中には、神様ならぬ「亀様」が子ども達を見守ってくれました。友だち・保育士と作り上げて担ぎ、嬉しそうな一人ひとりの表情や、皆で楽しさを共有できた子ども達の笑顔はコロナ禍であっても変わりません。行事の在り方は変容していますが、様々な経験が子ども達の未来でも温かく力になるものであるよう、一つひとつの経験を楽しみながら、大切にしていきたいと思えます。

様々な環境が変わる中、これからの保育（保育園）の在り方について考える機会が幾度とあります。先にも述べた園歌の中に「でっかいでっかいぞくだ

よ」という歌詞もあります。保育園は、在園児の家庭だけでなく地域の方にとっても楽しい事を見つめられる場所となり、一つの大きな家族であるように寄り添う事は大切な役目です。保育園の資源が活かせるように、コロナ禍でもできることはやろうという姿勢で、離乳食講座やベビーマッサージなどの育児講座を実施してきました。これからの未来を作っていく子ども達と、子ども達を支えていく大人が様々な経験を通して輝き「いっぱいいっぱいいたのしいな」と感じていける保育園でありたいと思えます。



さやま園

生活支援員 長田 帆波

『笑顔がたくさん』コロナ禍の運動会

さやま園では、毎年5月に運動会を実施しています。年度が変わり、最初の行事となる運動会。学生時代から運動会が大好きであった私は、今年初めて行事担当となり、気合いを入れて臨みました。本来であれば園庭で青空の下、全員で運動会を実施していたのですが、今年度もコロナ禍の為に時間を短縮し、園内で二手に別れ縮小した形で開催しました。本番に向けて利用者の皆さんと様々な準備をしていきました。運動会の象徴となる万国旗や看板・ポンポン・ポスター・メダル等、午後の日中活動の時間を使って作成しました。紅白の組分けが発表されると「〇〇さんと一緒だ〜！頑張ろうね」「絶対勝ちますよ！」等、利用者・職員を問わず運動会のお話が出るようになりました。事前にホールで玉入れの練習も行い、準備は万端です。そして迎えた本番当日。利用者・職員皆で紅白のTシャツを着て臨みました。選手宣誓から始まり、リレーや玉入れ・大玉送り等、様々な競技を行いました。中

も、毎年一番盛り上がるのが職員競技です。今年も職員同士の熱い戦いがあり、利用者の皆さんも楽しんで応援していました。最後の表彰式では、優勝したチームに賞状と参加した利用者の皆さんにメダルが渡されました。あっという間に運動会は終わってしまいましたが「勝って嬉しかったよ」「また来年もやろうね」「運動会楽しかったよ！」と、たくさんの嬉しい言葉を頂きました。

コロナ禍でなかなか外出や旅行に行けない中、利用者の皆さんや職員の生き生きとした表情や、笑顔がたくさん見られ、今年度も運動会を開催できて「本当によかったなあ」と改めて感じました。



児童センターぱれっと

児童厚生員 光田 花野

『みんな集まれ夏工作』

毎年、夏休みに入った子ども達の為に、夏の工作会を実施しています。月1回行う工作会より、難しい作品を制作できるよう、職員で検討し決めています。

今年の夏の工作テーマは ①ジップロックと保冷剤、発泡スチロールを使用した「センサーバックで海の中を作ろう」 ②ナプキンで紙せっけんと透明なクリアファイルでケースを作る「手作り紙せっけん&透明ケース」 ③ペットボトルを輪切りにして繋げる「くるくるリング」 ④透明なプラスチックを使用した「スケルトンうちわ」 ⑤紙皿を中心に向かって渦巻き状に切り、惑星を飾る「紙皿でぐるぐる宇宙を作ろう」 ⑥段ボールを使用した「アニマルヘッド〜シカの壁掛けオブジェ〜」 ⑦東大生や地域のボランティアの方々が集まり、科学のあそびを教える「科学あそび」 ⑧紙粘土を使用し夏を作る「紙粘土で夏しよう!!!」 ⑨革に型うちをする「革のストラップ」の9つでした。コロナ禍の為、

人数制限をし、それぞれの工作は各9名の定員で2回実施しました。どの工作も予約での申し込みとなっており、人数が多い場合は抽選となりました。子ども達の作品を見ると自分が好きな物を書いたり、将来イラストレーターになりたい夢がある子は、飾り等は使用せず、絵のみの作品に仕上げたりと、個性豊かな作品が仕上がりました。大人の考え方と子どもの考え・発想は異なる為、毎年子ども達の作品には驚かされます。今後も、子ども達が楽しめる作品、興味をもてる作品が夏工作で出来るようにしていきたいと思います。



第44回 全国救護施設研究協議大会発表について

発表テーマ「利用者のコロナゼロと権利擁護は ONE TEAM」

日時 令和4年9月29日(木)～30日(金)

開催地 滋賀県

昭島荘 相談課長 **茂木 貴之**

コロナの影響で中止となっていた救護施設の全国大会が3年ぶりに開催されることになりました。今年は関東地区37救護施設のうち、東京都と茨城県が実践発表の当番であり、当施設が積極的にエントリーをしました。

(1) 権利擁護の実践 ～本人会の立ち上げ～

今年度、苦情解決委員会から権利擁護委員会に名称変更し、本人会を設置しました。本人会のエピソードとして、コロナ禍のため、外出は平日のみとしたため、平日に作業をしている利用者は外出することが出来ず、外出するには作業を休まなければならない状況でした。作業内容は製袋作業でしたが、作業を休むことで工賃が減ってしまうため、利用者にとってマイナスのイメージがありました。本人会の中で話し合いを持ち、解決策として有給休暇制度を導入しマイナスイメージの払拭に努めています。

(2) 人材育成 ～救護施設の認知度アップへの取り組み～

実習生の受入れ及び人材確保についてです。救護施設は都内に10ヶ所、全国では約180ヶ所余りで、認知度は低いと感じています。福祉を目指す多くの方は、障害や高齢者支援を目指しており、救護施設を目指している人は少数です。求人募集をしてもなかなか応募がないのが現状でした。待っていても応募がなければ、こちらからアクションを起こさなければと、施設長と大学や専門学校を積極的に訪問し、救護施設の認知度アップ及び求人活動を行っています。

～将来の人材を育成～

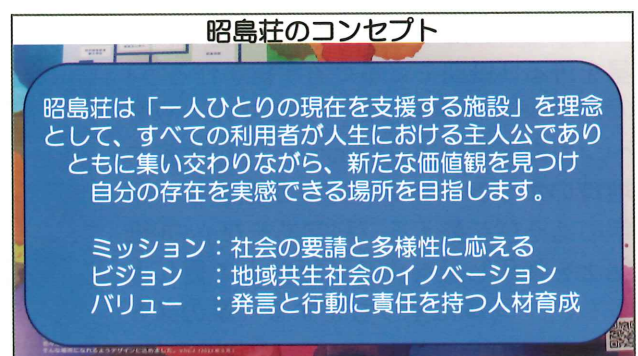
社会福祉士養成の実習生を受入れており、例年は1～2名程度ですが、昨年度はコロナの影響で他施設が実習生の受入れを中止していることで、4名の実習生を受け入れました。実習受け入れ態勢としては、まだ不十分な点がありますが、職員一人ひとりが、将来の福祉の担い手となる人材を育成するといった意識を持つことが大事であり、伝える・教えるには、自己研鑽する必要があり、職員の資質向上に繋がるのではないのでしょうか。

(3) 地域における施設の役割 ～民生委員との関わり～

生活困窮者支援については、救護施設の役割は施設利用者の支援だけではなく、地域の生活困窮者支援の役割も担っています。現在、生活困窮者支援については模索しており、民生児童委員と定期的に懇談会の開催し、行く行くは、地域ケアシステムの中核施設を目指しています。

(4) コロナゼロへの取り組みから ～新たな法人の絆～

これまで様々な取り組みをしてゼロを達成しておりましたが、8月15日に利用者初の陽性者が出てしまい、9月7日現在で26名の利用者が陽性者となりました。同法人の高齢支援系からの職員応援や物品の貸し出し、保育園からは納期の迫った作業の手伝いをしていただきました。コロナゼロを継続できなかったのは残念ですが、この大変な状況を利用者・同法人施設の応援をいただきながら、私たち職員が一丸となって真の意味での「ONE TEAM」となり乗り越えていきたいと思えます。



消火活動・避難誘導の優良事例に選ばれました。

昭島荘

昭島荘では日頃から防災訓練や防災委員会を中心に防火防災への取り組みを行っています。

その中で先日、実際にあった消火活動が管轄消防署より消火活動・避難誘導の優良事例に選ばれました。

去る令和3年4月20日、朝7時過ぎに火災報知器が鳴動しました。昭島荘の1階居室より黒い煙が出ているのを職員が確認し、居室に向かうとカーテン越しに炎が居室の天井まで上がるのが見えました。速やかな火災周知と初期消火、避難誘導を確実にを行い、大事には至りませんでした。出火原因は不明との消防署の結論でしたが、怪我人もなく胸をなでおろしています。

今回の消火活動について

- ① 火災を発見した職員はすぐに「消火器！」と叫び、他職員とご利用者に対して火災が発生したこと周知したこと。
- ② 職員3名が消火器の位置を把握しており、短時間で消火器を持って現場へ駆けつけたこと。
- ③ 消火後も万が一に備えて速やかに避難誘導へ移行し、複数の活動を同時に進行了こと。
- ④ 屋外へ避難完了後、施設利用者の部屋割り表を活用し、逃げ遅れがないか確認したこと。
- ⑤ 消火完了後、速やかにスプリンクラーポンプを停止、水損防止を図ったこと。

以上5点の東京消防庁推奨事項を速やかに実施することが出来ました。

後日昭島消防署より初期消火及び避難誘導の優良事例として、ホームページへの掲載と消防講習会での事例発表も予定されています。

日頃から火災を発生させない防火防災への取り組みを行っている昭島荘ですが、いざ火災が発生した際の消火活動について、発生時の職員間の迅速な情報共有や消火器の準備を最短時間で行えたことは、日頃の自衛消防活動の成果の一端であるという思いがあります。その成果が何よりもご利用者の方達に一人の怪我人もなく初期消火・避難誘導が出来たという結果に繋がったのだと思います。

昭島荘では、今回の事例における反省点や更なる改善点を再度施設内で検討・共有すると共に、職員への継続した防火防災教育の徹底に努めていきます。



ご支援ありがとうございました (敬称略順不同)

後援会 山内悦◇南山徳英◇澤井晴乃◇下坪唱三◇川井文字◇高仲智子◇大橋政照◇幡野信子◇宮奈多摩江◇高橋暢子◇矢部文字◇鮫島恭江◇昭和の森エリアサービス(株)スマイルケア昭和の森◇(株)増田コーポレーション◇(有)横手モータース 代表取締役 横手利男◇合資会社松野薬局 会長 松野榮仁◇(株)ケイエス機材◇昭島ガス(株) 代表取締役社長 平畑文興◇(株)昭和造園◇(株)ミートショップの鈴政◇(株)安江設計研究所 代表取締役 安江知之◇NPO法人 日本幼児健康体育協会◇(株)フソー 代表取締役 山

田政宗◇(株)サン・ホワイト 代表取締役 三宅真◇浦野工業(株) 代表取締役 浦野静夫◇(有)リハビリサービス◇国立厨房サービス(株) 代表取締役 藤原章太郎◇原町三丁目町会 会長 土屋勝◇(株)豊明 代表取締役 北村和幸◇(有)原島組 代表取締役 原島和敏◇(有)ラッククリーンサービス◇ワタキューセイモア(株)東京支店 支店長 野澤和弘◇唐沢電気(株) 代表取締役 小林利美◇(株)コスモス医工 代表取締役 小林寿男◇水村肉店 水村豊◇(株)オービーエス

資格取得のご紹介

次の方が資格取得しました。
日頃の業務に活かし、ご活躍を期待します。

■ 保育士

大山保育園
保育士 米田 玲子

東京都同胞援護会 ウクライナ子ども達への 支援活動報告 2022

各職場にユニセフの募金箱を設置して
募金の呼び掛けをおこないました。

活動内容 「ウクライナ緊急募金」
活動期間 令和4年8月～9月



10月7日に公益財団法人日本ユニセフ協会へ48万1,337円を送金することができましたのでご報告申し上げます。
戦争の犠牲になられているウクライナの人々に直接手を差し伸べることは簡単にはできませんが、本会の活動がせめて戦争の影響を受けている子供たちへの一助となれば幸いです。
ご協力していただいた方々に感謝申し上げますとともに、この世界の平和を脅かしている戦争が一日も早く終息することを願っています。

訃報

本会の理事を務められていた橋本泰子氏が、令和4年10月18日に永眠されましたので謹んでお知らせ申し上げます。

橋本泰子氏は、平成20年の就任から平成30年までの10年間という長きにわたり理事として本会の発展に尽くされました。大正大学の名誉教授時代には、認知症の医療や介護に功績のあった人や団体に贈られる日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞(日本認知症ケア学会主催、読売新聞社特別後援)の功労賞を、30年以上前から認知症の人のケアに携わり、介護保険などの福祉制度構築にも貢献された(大正大学ホームページより)ことから受賞されています。

ここに心暖かく誰からも愛されてこられた橋本泰子氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

雑感

私の朝は、一杯のコーヒーから始まります。食事や仕事の合間のひと時など、1日の中で様々な場面にコーヒーがあります。皆さんもお好きな方が多いと思います。

カフェで注文するコーヒーが大好きですが、近頃は、もっぱらコーヒー専門店で購入し家で飲むことが多いです。それぞれの専門店で取り扱うコーヒー豆に特色があり、その中から自分の好みに合うコーヒー豆を探すことも楽しみの1つです。

ご存じの通り、コーヒーの生産地の主流は、中南米やアフリカ、東南アジアなどです。最近では、中国やミャンマーなど、コーヒーのイメージがなかった国々でもコーヒーが栽培されています。まだまだ知名度や取り扱うお店は多くありませんが、なかなか美味しいです。

そう言えば…。私が勤める東村山生活実習所では、3年ぶりにカフェをリニューアルオープンしました。名称をcafé fluffy(カフェ・フラフフィー)とあらため、美味しいコーヒーと焼き菓子でおもてなしいたします。お近くにいらしたら是非お立ち寄りください。

(東村山生活実習所 本間 記)

発行者 理事長 飯山 幸雄
社会福祉法人 東京都同胞援護会
東京都新宿区原町 3-8
電話 03(3341)7161 <https://doen.jp>

印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国 4-1-8

令和4年10月25日 発行

